

## 胃がんリスク検診・経鼻内視鏡検査 H・ピロリ除菌治療による胃がん予防

医療法人社団 済仁会  
品川港南クリニック 院長 山内 潤 医博

胃がん検診はバリウムX線検診とされてきた。ヘリコバクター・ピロリ菌（ピロリ菌）感染が大部分の胃がんの原因であることが証明され、WHOにより発癌因子として認定されてからも長らく、受診者を有害な医療被曝（WHO認定発癌因子）にさらす時代遅れの胃がん検診しか厚生労働省は認めてこなかったが、2015年4月から胃内視鏡検査とバリウムX線検査を胃がん検診として同等の推奨レベルと認めた。受診者はようやく、胃がん検診で有益な胃内視鏡検査を選択できることになったのである。

ピロリ菌感染によって惹き起こされた慢性萎縮性胃炎の中から大部分の胃がんは発生するが、慢性萎縮性胃炎を経ずに発生する胃がんもある。従って、少量の血液でできる胃がんリスク検診（ABC検診）をまず行い、リスクに応じて胃内視鏡検査を行うことが理にかなっている。



経鼻内視鏡を手にする山内院長

**profile▶山内 潤**（やまうち・じゅん）東京大学医学部卒。東京大学医学部・医科学研究所付属病院外科（人工臓器移植診療科）で臨床・研究に従事。2002年品川港南クリニック開設。  
■所属学会 日本ヘリコバクター学会／日本消化器内視鏡学会／日本癌治療学会／その他。

### 品川港南クリニック

### 検索

「胃がん検診も国際基準に基づいて行うべきである」が私の持論という山内医博。「WHOは発がん因子として、胃がんのH・ピロリ菌感染、全てのがんの放射線被ばく・喫煙等を認定し、公表しています。H・ピロリ菌感染が大部分の胃がんの原因と判明した今、胃がんリスクがほとんどない受診者までX線を照射するバリウムX線検診は、受診者に発がんリスクなどの侵襲を負わせることになりません」

東京大学定年退官後の2002年、品川港南クリニック開設当初から経鼻内視鏡を採用。同クリニックでは術前処置を十分に行い、受診者の苦痛をできるだけ軽減するように努めており、2013年にはより解像度が高く、身体への負担も軽い最新機種に更新した。また、経鼻内視鏡は毎朝、通常診療の始まる10時までに終え、受診者がそのまま仕事へ行けるようにしている。（必要に応じて臨時に行う）

少量の採血で行うABC検診で、H・ピロリ菌感染の有無と、大部分の胃がんの発生源地である慢性萎縮性胃炎の有無を調べると、胃がんのリスクが分かるので、同クリニックでは、ABC検診を開設当初から採用し、胃がんリスクのある受診者には苦痛の少ない経鼻内視鏡検査を行っている。胃がんの発生していないH・ピロリ菌感染者には除菌治療を実施して胃がん発症リスクを低減し、胃がんを予防するとともに、リスクに応じて半年から2年ごとに経鼻内視鏡検査を実施し、早期胃がんの発見・治療につなげている。

### 医療法人社団 済仁会 品川港南クリニック

診療時間▶10:00～13:00 / 15:00～19:00（土・日は休診）  
※初診受付は定時の30分前に終了します 所在地▶東京都港区港南2-4-7 石橋ビル3F アクセス▶JR「品川」駅東口（港南口）徒歩5分、京浜急行「品川」駅（都営浅草線相互乗り入れ）徒歩8分（東洋水産・品川フロントビル向い、旧海岸通り沿い）  
電話▶03-3472-0085  
<http://www.shinagawa-kohnan-clinic.jp/>